科目ナンバリング							
授業科目名 <英訳>	認識人間学Ⅰ Epistemological Human Studies I			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　青山　拓央		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	哲学・思想(各論)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・前期	曜時限	木2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

世界の事物を認識するうえで、言語はきわめて大切な道具です。ある意味では、私たちは言語を通して初めて、世界を「見る」ことが可能になります。本講義では言語と認識との関係について、分析哲学・科学哲学のさまざまな知見を解説する予定です（いわゆる「言語論的転回」や「全体論」の意義などについてもお話しします）。教科書は使用しませんが、参考書に挙げた拙著『分析哲学講義』の該当箇所をブラッシュアップした内容を解説するとともに、同書にも記されていない、ここ最近の研究成果も紹介するかたちにて、講義を進めていきたいと考えています。

[到達目標]

分析哲学・科学哲学の基礎的な知識を得るとともに、言語と認識との関係について、さまざまな観点から理解を深める。

[授業計画と内容]

下記の７つのテーマに沿って、言語と認識との関係を考えます（授業の進行具合に応じて、どのテーマに何週をあてるかを変更する場合があります）。

１．ガイダンス・分析哲学とは何か（第１週～第２週）
２．言語の「意味」の客観性（第３週～第４週）
３．名前と述語の機能について（第５週～第６週）
４．文脈原理と全体論（第７週～第８週）
５．意味の使用説と自然科学（第９週～第１０週）
６．可能世界と形而上学（第１１週～第１２週）
７．心の哲学を概観する（第１３週～第１４週）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末の筆記試験で成績を評価します。採点基準はやや厳しめです。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
青山拓央 『分析哲学講義』（筑摩書房）

認識人間学Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

認識人間学Ⅰ(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前の予習はとくに必要ではありませんが、授業後の復習は十分に行なってください。

[その他（オフィスアワー等）]

教室収容人数に応じて、初回講義の際、受講者を制限することがあります。授業での積極的な質問・発言を期待します。

[主要授業科目（学部・学科名）]